

令和元年度第1回合同会議における主な助言に対する取組方向

課 題		主 な 助 言	関 係 機 関	回 答 等
議事－1 ヤクシカの 生息状況等 について	(1)ヤクシカの個体 数、生息密度、捕獲 状況、捕獲効率	ヤクシカの推定個体数について、実感としては下限値より上限値に近く、捕獲数が足りているとは言えない状態で、工夫が必要。	環境省 鹿児島県 屋久島町 林野庁	ご助言を踏まえ、関係機関で検討する。
		H30年度の河川界区分ごとデータ全体が上がっているのが引っかかる。糞粒法による生息数推定は、気温等の要素を入れて計算するため、昨年度の糞粒調査時期における気象条件が例年と異なった点がなかったか確認してほしい。	環境省 鹿児島県 林野庁	次回WGまでに確認する。
		生息推定数が下げ止まってきたのが、場所による地域性なのか、捕獲頭数自体が下がってきたのかを、検証するため、密度図について、当年の生息密度マップだけでなく、前年からの増減が見れるマップがあるとよい。	環境省 鹿児島県	糞粒法、糞塊法とも、今年度調査報告時に提示する。
	(2)ヤクシカによる植 生被害等及び回復 状況	低標高で個体数が減少していると考えていいだろうと思う一方、捕獲していない高標高域や西部のあたりで糞粒法による密度が局所的に増加または増加しつつある可能性がある。	環境省 鹿児島県 林野庁 屋久島町	低標高においては、引き続きモニタリングにより推移を確認し、助言を得ながら捕獲を継続し、捕獲を実施していない箇所についてはモニタリングにより推移を確認しつつ、捕獲計画を検討する。
		高標高域ではヤクシカの食害もかなり見られるため、希少種にとっても油断ならない状況であり、高標高域の固有性の高い場所の対策は、依然として急がなければならない。	環境省 鹿児島県 林野庁	高標高域でも全体的には密度の減少が見られることから、モニタリングにより推移を確認する。 優先度の高い希少種については、緊急的な対応を検討する。

課 題		主 な 助 言	関 係 機 関	回 答 等
議事－2 平成30年度 及び令和元 年度の取組 について	(1)ヤクシカの生息 環境	増加率については、河川界ごとに植生が異なり餌資源量によっても繁殖率に影響してくるため、変数として入れるのは難しいかもしれないが、それも計画捕獲頭数に反映できるよう検討課題として頂きたい。	環境省 鹿児島県 林野庁	河川界ごとに餌資源量の調査は行っていないが、植生データ等是一部地域で蓄積があるため、ご助言を踏まえ、関係機関で検討して可能な範囲で対応して参りたい。
	(2)指定管理鳥獣捕 獲等	①今後は、屋久島で行われた指定管理鳥獣捕獲等事業に関する情報も資料に載せて欲しい。 ②「シャープシューティング体制による試験捕獲」では、屋久島が抱える課題の解決につながり得る成果が得られており、それを生かした屋久島ならではの指定管理鳥獣捕獲等事業の計画を詰めていく必要がある。	環境省 鹿児島県 林野庁	①可能な範囲で対応して参りたい。 ②指定管理の活用について、ご助言を得ながら議論を深めて参りたい。
	(3)ヤクシカの行動 調査	西部と中央部の捕獲が課題として残っているが、捕獲作戦を立てる上ではヤクシカの動きを把握することが非常に重要。	環境省 林野庁	西部地域については、林野庁にて今年度GPS首輪装着による行動把握を行うこととしている。 中央部については、ご助言を踏まえ、関係機関で検討して、可能な範囲で対応したい。
	(4)ヤクシカの捕獲 方法	捕獲によりシカも学習し、獲られにくくなる。複数の捕獲オプションを備え、柔軟に駆使できるようにしておく必要がある。	環境省 鹿児島県 林野庁 屋久島町	ご助言を踏まえ、可能な範囲で対応して参りたい。

課 題		主 な 助 言	関 係 機 関	回 答 等
議事－３ 森林生態系の管理目標について (密度操作実験計画の植生回復目標)も含む	(1)西部地域の植生回復目標	①西部地域についてはヤクシカにより遷移が阻害されている植生の回復と二次林を原生的な森林に戻すという2つの意味があるが、合意形成できて納得いく目標ができるとよい。 ②消失率の大きい溪流沿いの植物種の回復、固有種保全は1つの目標となる。 ③西部地域の元々の森林の状態については、他地域との比較により予測できる可能性がある。 ④いつまでも問題解決を先送りしないで、真剣な議論をして、早く決断していく必要がある。 ⑤少なくとも低標高域で密度が下がってきたときに、屋久島全島の個体数管理の中で西部だけ放っておくわけにもいかないというのが基本的な判断の流れかと思う。	環境省 鹿児島県 林野庁	特徴的な溪流性植物等の希少種以外に森林そのものの更新が非常に危機的な状況にあり、その対策に踏み切る方向性については、概ねWGの理解が得られているが、一部合意が得られていないため、9月に西部地域の森林の目指す姿について意見交換会を実施した。理解は深まったと思われるが、合意形成には至らなかったことから、引き続き対応を検討し、関係機関連携して調整を図っていく。
	(2)森林生態系管理目標における現状評価	①減少した植物についてはヤクシカの採食によるものか、他の植物との競合によるものかがわかるような記載があるとよい。 ②植生被度についてブラン・ブランケの手法は統計的に扱いにくいいため、今後は10%刻み等、%での記録が望ましい。 ③種数だけでなく種組成も評価できるとよい。 ④5年おきといわず調査してほしいが、3回分のデータがあるというのは貴重なものが揃いつつあると認識。	林野庁	ご助言を踏まえ、可能な範囲で対応して参りたい。
	(3)森林生態系の回復のための課題	①猟友会では若い人が少ないことと、捕獲実施場所がほとんど民有林や里山であることから、世界遺産地域、高標高域や西部地域での捕獲について、制度、体制をどうつくるかが課題。 ②西部に限らず屋久島全体として、森林自体をどうするかという議論とヤクシカによる植生影響をどうするかという議論が混在している。ヤクシカが過多であることは共通認識であるため、その影響により植生が衰退しているところを回復させることが必要であるが、今後森林自体をどうするのかを議論した方がよい。	環境省 鹿児島県 林野庁 屋久島町	①試験日の日曜日設定や補助事業による新規狩猟免許取得促進など、捕獲の制度、体制について関係機関の連携・役割分担する仕組みを検討し、保護地域内の捕獲計画を検討する。 ②今年度、林野庁において現状把握・評価及び目標達成状況を把握するための指標を抽出することとしている。それらも踏まえたうえで議論を進めたい。